年アメリカへ亡命した。　ヘンリー 14 歳、移住後は極貧でヘンリーは昼働き、夜間高校に通った。　ニューヨーク市立大学は非常に開放的でパートコースがあり、ここに在学したが　第二次大戦で召集され陸軍に入隊、ヨーロッパ戦線ではドイツ語が話せるため対諜報部隊の軍曹として活躍、復員後は奨学金を得てハーバート大学入学、最優秀な成績で大学院へ進み、1954 年、博士号を得た。

その後は順風満帆、ハーバート大学政治学部で教鞭を執っていたのと同時に現政権に対する痛烈な論文を数多く発表していた。

アイゼンハワー政権の副大統領であったリチャード・ニクソンの眼にとまり、直々のスカウトで政権に入り大統領補佐官になり、ニクソン政権では全ての外交を仕切り、国務長官、国防長官を務め、ニクソンが任期途中で引退したが、フォード政権でも国務長官を務め外交の達人とされたが、一方ではその神出鬼没の外交に忍者外交と怖れられ、ベトナム戦争終結への貢献でノーベル平和賞を受賞している。

「ジャップは裏切り者」

キッシンジャー氏 72年、日中外交で

米公文書

キッシンジャー氏＝UPI・共同

【ワシントン＝共同】ニクソン米大統領の中国訪問など一九七〇年代の米外交政策を主導したキッシンジャー大統領補佐官（後に国務長官）が七二年夏、田中角栄首相が訪中して日中国交正常化を図る計画を知り「ジャップ（日本人への蔑称＝べっしょう）」との表現を使って日本を「最悪の裏切り者」と非難していたことが、二十六日までに解禁された米公文書で分かった。キッシンジャー氏の懐疑的な対日観は解禁済みの公文書から明らかになっているが、戦略性の高い外交案件をめぐり同氏が日本に露骨な敵がい心を抱いていたことを伝えている。繊維交渉などで険悪化した当時の両国関係を反映しており、七〇年代の日米関係史をひもとく重要資料といえる。

文書はシ家安全保国立公文二十六日通信に閣ハワイが行われ十一日付（極秘）シンジャの冒頭でり者の中が最悪だ続けて正常化を の外交方

ドクター・キッシンジャーは大統領になる才能を充分に有していたが、アメリカ大統領に立候補する条件にアメリカ国内で生まれたという条件があり、残念ながら 14 歳で移民してきたキッシンジャーには資格がなかった。

オバマ大統領はインドやインドネシアで育ったが、ハワイ生まれだったから資格を有していた。

ニクソン・フォード両政権の外交面を一人で背負ったのはドクター・キッシンジャーでその外交手腕は素晴らしいモノがあったが、それはアメリカの国益としてであって、関係国ではしばしば煮え湯を呑まされることになり、歯ぎしりをかんだことも多々あったようだ。、それまでのオーソドックな手法と違い、神出鬼没、忍者外交と呼ばれたように、その独特なドクターキッシンジャの外交手法に翻弄されたようだ。

◎ユダヤ系キッシンジャー外交、中東戦争、イスラエル問題、ユダヤ人
石油戦略、石油メジャー、田中角栄政権、新エネルギーへの転換政策、
原子力発電所、ロッキード事件、等々が複雑に絡み合います。